

令和 2 年 度

研 究 紀 要

創

第 2 3 号

TSUKURU



北海道今金高等養護学校

巻頭言

平成 30 年度より、「キャリア発達を促すためのカリキュラム・マネジメント～新しい職業学科として社会に開かれた教育課程の構築を目指して～」を研究主題とし、第 8 次研究となる 3 カ年の実践研究をスタートしました。本年度は、その最終年度として、研究の成果と課題を校内で共有し、「本校教育の礎となる実践を積み重ね、そして磨く」大切な年となりました。

課題研究では、各種授業研究をととして「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりに取り組み、主に協同学習の技法を用いた授業を行い、生徒の相互協力的な関係の生起と自己肯定感・有用感の向上など、多くの成果を得ることができました。併せて、授業者においては「振り返りレポート」の活用をととして、授業における意図の理解・ポイントとなる事項の気づきを学び、授業力を高めることができたと考えています。

プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱでは、「教科横断的な学習の視点を持ち、教育課程を整える」ことを中核とした指導計画の作成に取り組みました。各教科等の単元配列表・シラバス・指導内容表の作成において、各教科等の横断的な内容を精査することで、その整合性を高めることができました。今後は、各教科等を横断する横軸となる指導内容「キャリア教育～今養版キャリアプランニング・マトリックス」と各教科等の整合性を高める取り組みを期待しています。さらに社会生活に向けた実践的な学びである「模擬株式会社 IMAKANE FACTORY」の研究では、商品開発・仕入れ販売という会社業務の基礎学習、会社経営・運営の視点を取り入れた模擬株式会社委員会の設立、ふるさと納税返礼品の商品検討・販売会の企画検討などをととして、生徒主体の活動のあり方を検証し、模擬株式会社の教育的意義・効果を高める実践を行うことができました。

調査研究では、進路指導部が主体となり、「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」をはじめ、就労関係機関・組織と連携するとともに、卒業支援をととして、卒業生の生活・就労に関する情報を収集し、本校教育にフィードバックが必要な指導要素を分析しました。今年度は、「キャリア教育～今養版キャリアプランニング・マトリックス」に、卒業後にあたる「生涯にわたっての段階」を新設し、就労定着を目指すうえで必要な思考・判断・表現力の指導要素を明らかにすることができました。今後は、より卒業後を意識した各学年における段階的な指導を展開できるように、前述した各教科等を横断する横軸となる指導内容として、教育課程に位置づけて推進することを期待しています。

寄宿舎研究では、キャリア発達の視点から、「将来、自分らしい生き方を選択し実現していく」ための基本的生活習慣の確立や余暇活動の拡充を図ることを重点に、「卒業後に向けたキャリア発達を育む指導」を研究主題として実践研究をスタートしました。具体的な取組として、キャリア教育に関する全体研修や事例研究の実施や日々の生活が生徒に与える影響をキャリア発達の視点から考察すること。さらには生徒自身が主体的に営む寄宿舎生活のあり方の検証などを行いました。キャリア発達を育むためには、役割活動をととして、自己理解・他者理解を深めることや近い将来への見通しを持ち、スモールステップで日々の目標を達成することなどが、キャリア教育の定義である「自分らしい生き方を実現する過程」には必要であると確認することができました。

以上のように本研究は、「知的障がい教育におけるキャリア教育の創造」という大きなテーマに、「社会に開かれた教育課程」・「主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくり」・「キャリア教育を育む生活指導」の観点から迫ろうとしたものです。この 3 年間の研究成果は、本校教育の充実・発展を推進する一過程であり、今後は、得られた成果を教育課程・生活指導という枠組みに流し込み、生徒の夢や希望につながる実践が必要であると考えております。

結びに、校内研究の推進に当たっては、本校関係者をはじめ、多くの方々から情報や貴重なご意見を伺い、本研究にも反映させていただきました。改めて感謝を申し上げます。

是非、忌憚のないご意見・ご助言をいただければ幸いです。

今後とも、本校へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和 3 年 3 月

北海道今金高等養護学校 校長 進 藤 仁

目 次

<巻頭言>

第 1 章	研究の全体像	．．．．．	2～ 10
第 2 章	課題研究	．．．．．	11～ 99
第 3 章	プロジェクト研究	．．．．．	100～109
第 4 章	調査研究	．．．．．	110～137
第 5 章	寄宿舍の研究	．．．．．	138～152
第 6 章	研究の成果と課題	．．．．．	153～161

<あとがき>

<共同研究者>